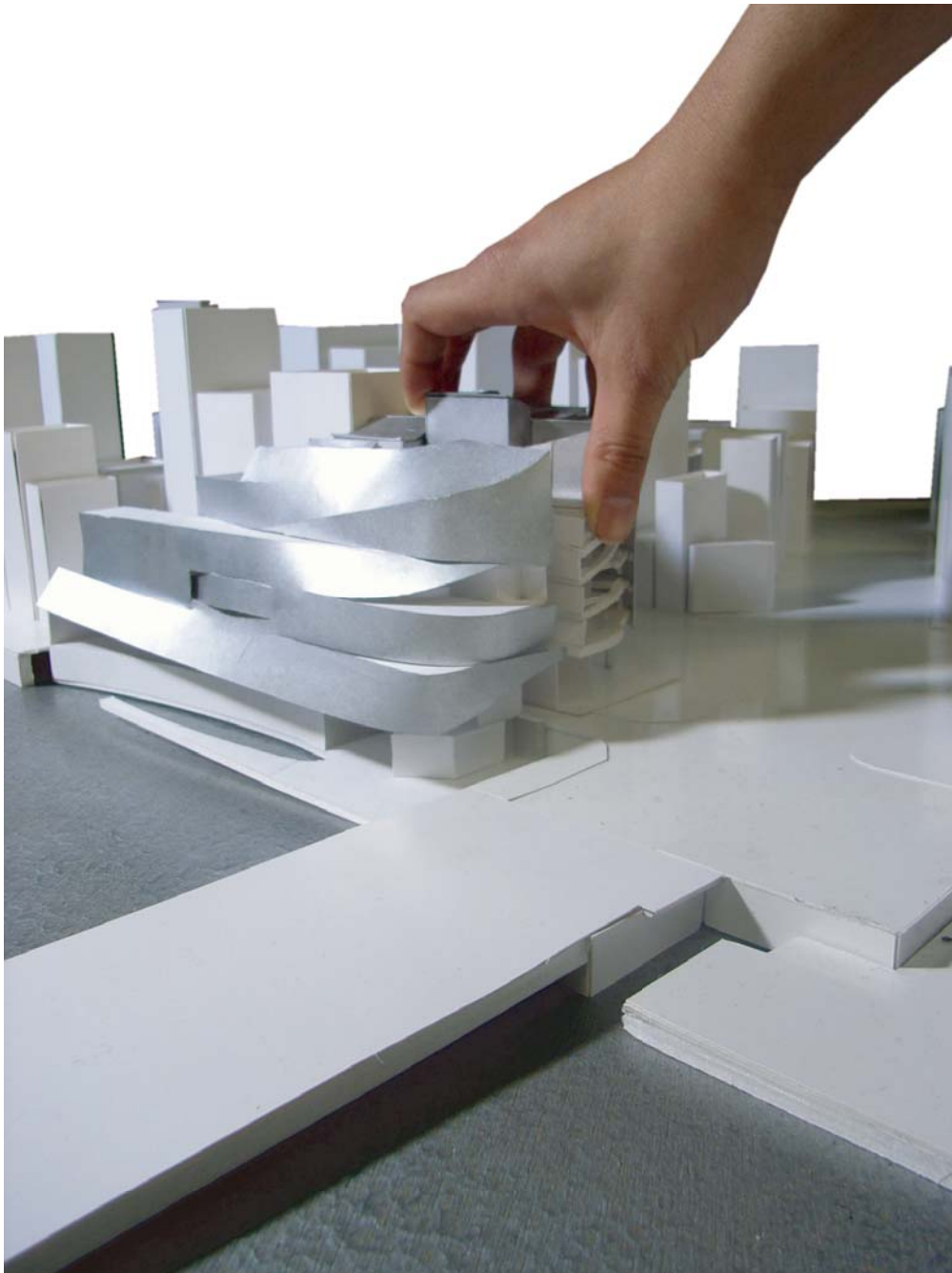




場所に応答する建築
見立てを用いた設計手法
早稲田大学大学院理工学研究科建築学専攻
成山 由典
yoshinori nariyama

研究背景／現代の状況ー２つの諸相

research background

私たちの時代は、グローバリズム、ユニバーサルといった普遍的なことが優先される世界観が私たちの世界を急速に取り囲むことによって、全地球的に均質化が進んでいる状況にある。

時代の速力は、私たちの世界を飲み込みつつある。速力という力によって、私たちのかけがえのない場所は死にかけている。どこにでもある場所が増えることによって、どこにもいないわたしという状況が生まれている。

そのような状況に、私達は面している。均質化という状況はますます進むだろう。だが、それを認めた上で、私たちは、これからの世界の一部を担っていかねばならない。

私たち人が誰も彼もが一人として同じ顔を持たないように、また、それぞれの代わりに「死」を迎えないように、表層だけでなく、深層に漂うかけがえのない場所の声を聴き、多様な価値を認めていく態度こそが私たちの時代には必要不可欠である。

研究目的／わたしたちの環境に向けて

research purpose / action for environment

左上の写真は、模型というミニチュアの<環境>の中に、新しい建物の模型を置くという<行為>を通して、具体的に自分の想像する<居場所>を創り出したものである。自分の想像する世界を形作った。

私たちは、原初の時代から、<環境>というわけのわからないものに具体的に行為をすることで意味を見出し、あらゆる世界の可能性を発見してきた。

本研究と本計画は、この「先行する事柄に、具体的に行為していくことで、新しく意味を発見し、新たな<世界>の可能性を示す」。その中で、自らのなかでの方法論と設計態度を確立しようということである。

想像することは、創造することに繋がっている。わたしたちの心象風景は実際の風景と繋がっている。想像すること、対象化すること、組み合わせることを通して場所の創造は可能であることを示す。

研究概要

outline of purpose

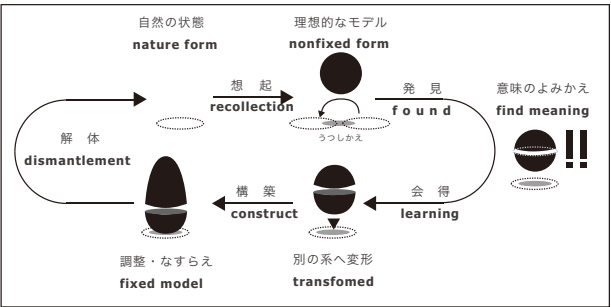
わたしたちは、世界の中でどのように「自分たちの場所」を獲得していくのか。見立ての手法から得られた対象化モデル、対象に対する3つのアプローチの方法を用いて、設計を行った。

ここに、その設計の記録をプレゼンテーションする。

方法／対象化と、対象へのアプローチ
making to object and object base approach

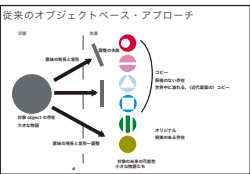
対象化するための方法として、見立ての手法の研究から抽出した対象化モデルを示す。
また対象へのアプローチとして、右の3つの方法を示す。3つの方法はそれぞれ、パラメーターの抽出と組み替えの過程の中に組み込まれる。
これらの方法を用いて、場所に応答する建築の設計を行う実験を試みた。

対象化
making to object



見立ての手法から得られた対象化の方法

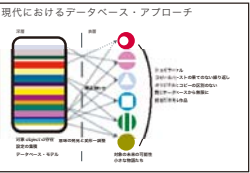
生成的アプローチ
generation approach



ひとつの対象から得られるいくつかの発見。
ひとつの対象の中でさえ、多様な可能性が潜んでおり、意味の読み替えや発見が行われることによって、その可能性は顕在化される。

▶ パラメーターの抽出

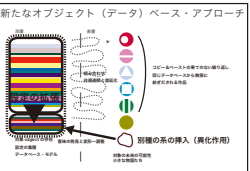
組み合わせ的アプローチ
data based approach



いくつかの可能性をひめた対象（複数）から、それを読み取って、組み合わせることで新しい意味の創出を行うもの。

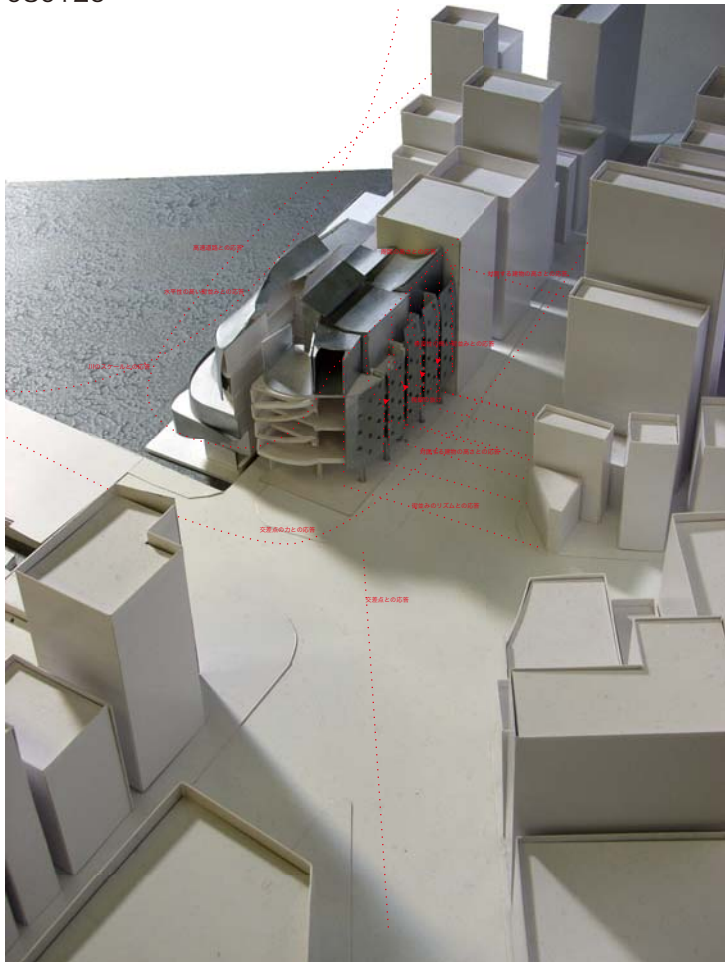
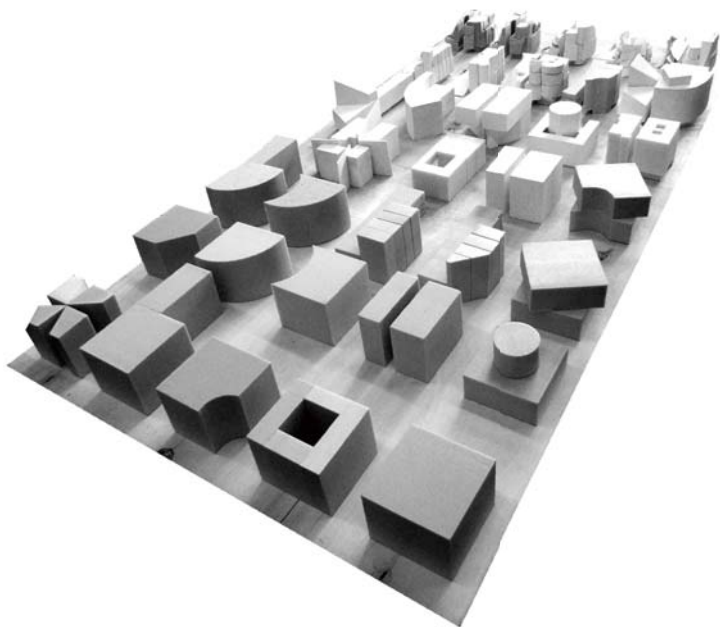
▶ パラメーターの組み替え

組み換えモデル・アプローチ
data based approach



上記のものに対して、別種の系の挿入を行うこと（異化作用の挿入）によって、意味の重層化や、意味の拡張が行われる。

▶ パラメーターの組み替え

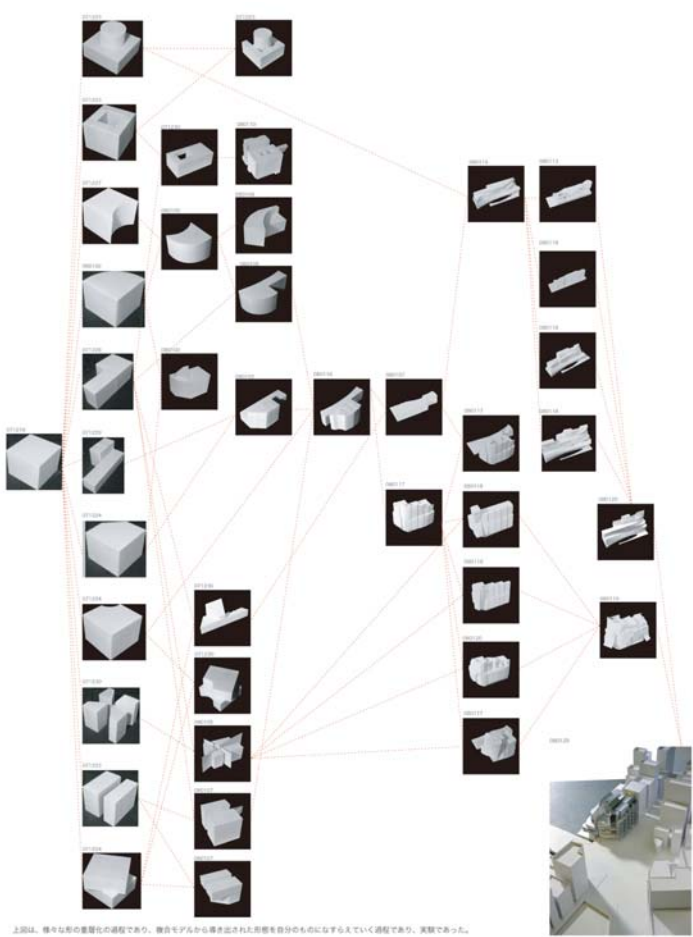


パラメーターの抽出



上図は、それぞれ、model、場所に基づき建築の形式、別荘から眺める行方、交差点から眺める行方、別荘からの交差点、通道の行方、別荘の横に並んでいる。

パラメーターの変形・合成



上図は、様々な形の量産化の過程であり、数値モデルから導き出された形態を自分のものにならえていく過程であり、実験であった。



隅田川と高速道路によって、水平性の非常に強い街並みを作り出している。



乱立するビル群が垂直性の強い町並みを作り出している。

配置図

